

## おわりに

本研究は、国立特別支援教育総合研究所の第5期中期目標期間に新たに設けられた重点課題研究の1つとして、国が推進するGIGAスクール構想を踏まえて「ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究」をテーマに令和3年度～4年度の2か年の計画で開始されたものである。

主たる成果物であるガイドブックには自校でICTを活用した教育を推進するためのチェックリストを付してあり、学校の管理職、校内のICT活用を推進するリーダー的立場の教員等を中心に、自校の長所、強みと課題等を把握することで、自校のICTを活用した教育の現在の状況や、今後重点的に取り組む必要の存在を確認することができるように工夫している。

当初、ICT活用事例を豊富に掲載するガイドブックについても検討したが、先行研究や市販の参考図書などのレビューからは、事例紹介は多くある一方で、学校におけるICT活用の推進のための取組の進め方についての情報が殆どないことが明らかになったことからプロセスを中心としたガイドブックとしている。なお、ガイドブックの推進のポイントに関して参考となる事例についての情報も得られるように都道府県教育委員会が公開している情報サイトについて解説を付して掲載している。

このガイドブックを各学校のICT活用の推進、指導・支援の充実、そして一人一人の子供たちの自立や社会参加へとつなげて頂ければ幸いである。

研究協力機関である青森県教育委員会、京都府立舞鶴支援学校、聞き取り調査にご協力頂いた2校の小学校と11校（舞鶴支援学校を除く）の特別支援学校に感謝申し上げたい。さらに、聞き取り調査をさせて頂いた特別支援学校の先生方には研究協議会等を通じて、プロセスモデルの評価、ガイドブックを改善するためのコメントを頂いたことにも合わせて深く感謝を申し上げる。

ガイドブックの活用方策等については研究協力者の方々からも貴重なご意見を頂くことができた一方で、新型コロナウイルス感染拡大による訪問の遅れやテキストの分析作業の遅れから、適時に報告ができず多大なご心配も頂いたことをお詫びする次第である。

青森県教育委員会からは、1年目に鎌田（現 小田桐）章希教諭、2年目に伊藤周平教諭に特別研究員として研究チームに参画を頂いた。本研究が常に教育現場に軸足を置いて取組を進めてこられたのはお二人のおかげである。

報告を終えるにあたり、関係各位に心より感謝を申し上げる。

研究代表者 発達障害教育推進センター 上席総括研究員 棟方 哲弥